

## 令和4年度 東予地方局予算一覧

### 新規事業：○

( 事 項 名 )	( 事 業 費 )	(事業期間)
① 歴史文化資源魅力発信強化事業費	1,250千円	R4～6年度
2 えひめさんさん物語フォローアップ事業費	1,500千円	R2～4年度
③ 東予東部ものづくり次世代人材確保事業費	1,800千円	R4～6年度
4 しまなみ地域活性化促進事業費	2,680千円	R2～4年度
5 一般就労障がい者ピアサポーター養成事業費	939千円	R3～5年度
6 地域協働動物共生社会づくり事業費	997千円	R3～5年度
⑦ しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業費	2,129千円	R4～5年度
⑧ 農福連携デジタル化支援事業費	1,604千円	R4～5年度
9 地元森林材活用促進事業費	1,083千円	R3～5年度
⑩ ゆめしま海道3橋PR事業費	1,000千円	R4～5年度
(事業費合計)	<u>14,982千円</u>	

## 1. 歴史文化資源魅力発信強化事業費 1,250千円 (R4~6年度)〔新規〕

東予地方局と管内全4市1町で構成する「東予歴史文化協議会」は、これまでも東予地域の歴史文化資源を活用した地域活性化と人づくりに取り組んでおり、令和4年度からは地域住民や企業・団体など、より多様な主体の事業参画を目指す。

### 1 東予の歴史文化資源の魅力発信事業

#### (1) 東予みらい人材育成事業

高校生を対象に、地元有識者との交流、フィールドワーク、他校との意見交換を通して歴史文化資源をテーマにシビックプライドを見える化するデジタルポスターを制作。

※参加者:5校24名 オンライン講習×1回、フィールドワーク1回×5校、活動報告会×1回

#### (2) 歴史文化魅力発信セミナー

高校生がデジタルポスターを活用したシビックプライドの発信手法を学ぶ。

※参加者:5校26名 実地講習1回×5校

#### (3) 東予の魅力発信隊事業

歴史文化資源を活用してシビックプライドを発信するチーム「東予の魅力発信隊」を結成し、企業・団体に情報発信等の協力を働き掛ける。

※参加者:4校18名 各市町役場、管内企業等を訪問

#### (4) 歴史文化パネル展

デジタルポスターをパネル化し巡回展を開催。 ※全5市町計11回

#### (5) 情報発信強化事業

SNSにより歴史文化資源やイベントなどの情報発信を行う。 ※投稿数50回

### 2 東予地域マイクロツーリズム促進事業

東予の歴史文化遊学ツアー

一般参加者を対象に、デジタルポスターのテーマを舞台とした、高校生ガイドや地元ゲストとの交流を盛り込んだ散策ツアー。平均4.8の満足度(5段階)、9割超が「有料でも参加したい」との評価を得た。 ※一般参加者63人(延べ)、ガイド5校26名、地元ゲスト36名 全5回

### 3 事業費合計 2,500千円 (県1,250千円、4市各300千円、上島町50千円)



## 2. えひめさんさん物語フォローアップ事業費 1,500千円 (R2~4年度)

「えひめさんさん物語」を一過性に終わらせることなく、閉幕後も企業及び地域住民が継続して活動するための支援体制を整え事業を支援することにより、交流人口の拡大を図り、定住・移住を促進し、ものづくり産業の人材確保につなげていく。

### 1 えひめさんさん物語フォローアップ協議会の運営

### 2 チャレンジプログラム支援事業

○ホームページやSNSで、各プログラムの実施内容等について情報発信。

○各プログラムや地元特産品などを紹介するコラム(プチさんマガ)を掲載。

### 3 オープンファクトリー支援事業

○【新居浜市】イベント名:ものづくりの街新居浜をめぐるツアー

実施日:令和4年11月及び令和5年2月

参加者:計46名



○【西条市】イベント名:石鎚山麓等の自然・歴史体験ツアー

実施日:令和4年9~11月

参加者:計59名



○【四国中央市】イベント名:紙と暮らすキャンペーン

実施日:令和4年11~12月

※約4,000個のオリジナル紙製品を配布

### 4 石鎚山脈魅力発信事業

石鎚山脈の情報発信を行うため、「石鎚山々(さんさん)登山部」のメンバーによる登山レポートをSNSで発信。 ※メンバー18名が49本の記事を投稿。

### 5 事業費合計:6,000千円 (県1,500千円、新居浜市・西条市・四国中央市各1,500千円)

### 3. 東予東部ものづくり次世代人材確保事業費 1,800千円 (R4~6年度)〔新規〕

東予東部地域のものづくり産業は、若者の大手企業志向の高まりや人材の売手市場の影響等によって、慢性的な人材不足の状態にあり、次世代の技術的なリーダーや幹部候補となり得る高等専門学校等の高等教育機関卒業生の確保が重要な課題となっている。そこで、管内企業のニーズが高い高専をターゲット校とし、東予東部ものづくり次世代人材確保対策協議会が実施主体となって、ものづくり企業の次世代人材確保対策に取り組み、地域の活性化を図る。

#### 1 企業現場の若者を活用したものづくり企業のPR

- (1) 若手高専OB・OGによる情報発信 ※Webサイト・SNS「高専color」を開設
- (2) 若手高専OB・OGとの交流会 ※2日間実施 学生20名、企業4社参加



#### 2 企業の高等専門学校への売り込み支援

- (1) 意見交換会 ※2日間実施 教員延べ21名、企業延べ16社参加
- (2) ものづくり企業出張講座 ※17回実施 学生315名、企業17社参加
- (3) ものづくり企業体験イベント ※夏季・春季1回ずつ実施 学生29名、企業7社参加

#### 3 事業費合計 3,600千円 (県1,800千円、新居浜市・西条市・四国中央市各600千円)



### 4. しまなみ地域活性化促進事業費 2,680千円 (R2~4年度)

県、今治市、上島町及び関係団体等で構成する「瀬戸内しまなみ海道活性化実行委員会」において、アフターコロナを見据え、観光客の受入体制や情報発信の充実・強化を図った。

また、サイクリング観光客のマナー向上の意識を高めるため、地域と連携して実践的・協働的にマナー啓発等を実施した。

#### 1 インバウンド受入対応力向上支援事業 (実行委員会事業)

地域の事業者の受入対応力の向上への意識を醸成

- (1) インバウンド受入講座等の開催  
※新たな観光への対策セミナーの開催 基礎編:2回(1月)、応用編:2回(2月)  
※サイクルオアシス向け研修会の開催(1月)
- (2) インバウンド等誘客情報発信事業  
※Facebook「しまなみサイクリングパラダイス」の運営



#### 2 しまなみ地域イベント実施団体支援事業 (実行委員会事業)

情報発信強化のための事業コンセプトの役割やブランディングについて、観光事業者間で課題共有等を行い関係強化

- (1) 座談会の開催 ※2回(5月・2月、23団体32名参加)
- (2) 観光関連事業者のための動画作成・発信講座の開催  
※連続講座3回(9月、17団体19名参加)、個別講習4事業者各3回



#### 3 しまなみ地域サイクリストマナー向上事業 (県事業)

地域や関係機関と連携して効果的な啓発に取組み、サイクリングマナー意識を向上

- (1) しまなみ地域サイクリストマナー向上推進事業  
※協議会開催 2回(8月、3月)、ワークショップ開催 2回(7月)
- (2) しまなみ地域サイクリストマナー啓発事業  
※イベントや道の駅、レンタサイクル施設での啓発(4月、5月、7月、11月、3月)、SNS等での発信
- (3) 地域によるマナー啓発促進事業  
※サイクルオアシス(約90箇所)に対し、啓発グッズ配布や声掛け、ポスター掲示を依頼

#### 4 事業費合計 4,180千円 (県2,680千円、今治市1,200千円、上島町300千円)

## 5. 一般就労障がい者ピアサポーター養成事業費 939千円 (R3~5年度)

障がい者同士のサポート体制を整備することを目的に、働く障がい者の就労に関する身近な問題を同じ立場で相談・アドバイスできる「ピア（三同僚、仲間、対等者）サポーター」を養成することにより、障がい者の就労定着率の向上を目指す。

### 1 ピアサポーター養成研修の実施

- 事業内容  
民間企業等で働く障がい者を対象に、傾聴・カウンセリング等のサポート技術を向上させる研修
- 研修内容  
傾聴について（講義、実技・演習）、ピアサポート（助言、カウンセリング）  
ストレスマネジメント（代理受傷の防止）等  
(定員5名×3圏域)

※受講者計15名

### 2 働く障がい者交流サロンの開催

- 事業内容  
働く障がい者を支援するネットワークを強化するため、一般就労障がい者及び障がい者の就労継続の支援者が情報交換する交流会を圏域ごとに開催
- 実施回数：3回（養成研修終了後）  
※11/8:新居浜・西条圏域、11/21:宇摩圏域、12/19:今治圏域  
(会場及びオンラインによる同時開催)
- 対象：定員30名×3圏域  
一般就労障がい者ピアサポーター養成研修の受講者、就労への意欲を持つ障がい者、障がい者を雇用する事業所の事業主や人事担当者  
障がい者の就労・支援を行う者等

※参加者計72名



## 6. 地域協働動物共生社会づくり事業費 997千円 (R3~5年度)

犬猫の送致頭数が多い今治地域（今治市、上島町）及び猫の送致頭数が多い新居浜市において、岡山理科大学、今治明德短期大学等と連携し、人と動物が共生する豊かな地域社会の形成を推進する。

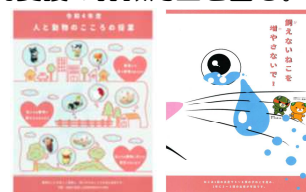
### 1 地域協働動物愛護連携会議の開催

獣医学・教育の専門家と協働し、動物に関する地域の課題解決に取り組む。  
構成：岡山理科大学、今治明德短期大学、愛媛県獣医師会今治支部  
今治市、上島町、新居浜市、今治保健所、西条保健所



### 2 個別事業

- (1) 小学校の飼育動物の飼い方等指導（今治地域）  
令和3年度に学校飼育動物相談窓口を開設及びリーフレットを作成し動物の飼い方や接し方に関する正しい知識を情報発信する。  
※リーフレットを今治市内小学4年生1,177人、上島町内小学生193人に配布
- (2) 「愛顔の生きもの係教室」の開催（今治地域・新居浜市）  
動物の愛護及び適正管理について、児童を介して地域における動物愛護の認識向上を図る。  
※今治市内小学校4校(187人)、上島町内小学校1校(27人)、  
新居浜市内の小学校12校(557人)で教室を開催
- (3) 新しい野犬の捕獲方法等の検討（今治地域）  
令和3年度に検討した方法による捕獲の実施、  
大学と協働し、実態調査、新たな捕獲方法を検討する。  
※野犬捕獲を15回実施し、16頭を捕獲  
飼い犬の遺棄防止・野犬への無責任な給餌防止の周知徹底を図る。  
※無責任な餌やりの看板作成、パネル展の開催2回、市町広報誌掲載
- (4) 飼い主のいない猫対策（新居浜市）  
無責任な給餌に関する注意喚起を行うとともに、避妊去勢助成事業の利用促進を図る。  
※新居浜市役所で猫の適正飼養に関するパネル展を実施。  
※作成したリーフレットを300の自治会に3,562枚配布のうえ回覧依頼



## 7. しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業費 2,129千円 (R4~5年度)〔新規〕

これまで、オリーブ・醸造用ぶどう・夏季レモン・甘長とうがらしの4品目について県内初の産地化に取り組んできた。その共通課題として、安定生産に向けた栽培技術の確立・多品目産地を武器にした生産者確保・商品力の強化による安定した販売がある。これらに横断的に取り組むことで効率的かつ効果的な課題解決に繋げ、魅力的な産地づくりを目指す。

### 1 しまなみ農業活性化協議会の設立と開催

主要4品目の協議会を一本化した新たな協議会を設立し、品目間の連携による販売拡大と生産振興の方策を検討した。その結果、販売連携グループ「しまなみみんなのディッシュ」を結成し、共同でのイベント参加や常設販売コーナーの設置等を目指すことになった。

※2回開催(10/18、3/24)

### 2 各品目の「安定生産技術の確立」

醸造用ぶどう・夏季レモン・甘長とうがらしの3品目について、課題である栽培技術の現地実証試験や県外の先進地調査等により地域に適した栽培技術の確立を目指した。実証データを基に栽培マニュアルをとりまとめ、講習会等で生産者の栽培技術平準化に繋げた。

※3品目で計9実証

### 3 選択枝の提供による「生産者の確保・育成」

品目ごとの栽培講習会に加え、調理科の短大生や地元中高生による栽培体験学習、主要4品目の現地を巡る「産地見学ツアー」を企画・開催した。

※オリーブ3人、醸造用ぶどう1人、甘長とうがらし4人の新たな生産者を確保

### 4 商品力強化による販売拡大

毎回1万人以上を集客している「せとうちみなとマルシェ」に共同販売ブースを設置し、特色のある地域の農産加工品を販売、PRした。

※11月からの計8回の出展で販売額約160万円、参加事業者は25事業者



## 8. 農福連携デジタル化支援事業費 1,604千円 (R4~5年度)〔新規〕

就労継続支援施設(B型)の共同受注窓口のマンパワー不足から取組みの拡大が難しい農福連携について、農家と施設のマッチングをデジタル化し、担い手の不足や高齢化に直面する集落営農法人の雇用の確保と経営の安定化を図る。

### 1 農作業受注システム検討会議の開催

- ・メンバー：集落営農法人、福祉施設、アドバイザー、市、JA、県
- ・検討内容等：  
民間アドバイザーの選定、システム開発進捗状況の確認
- ・共同受注による農福連携先進地事例研修(高松市)

※2回開催(5/23、3/15)

⇒関係者が一堂に会し、課題を共有し連携して取り組むことを確認

### 2 農作業受注システムの開発

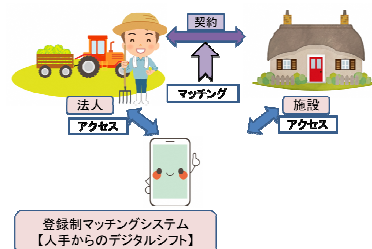
- ・農作業システムデザインの検討  
福祉窓口、農作業窓口、アドバイザーによる共同受注のための発注、受注デザイン検討
- ・作業動画作成研修会の開催  
実証圃において動画等を試作し、現場の状況を最も把握しやすい手法を確立

※円滑なマッチングにつながるシステムの仕様や映像の作成方法について、関係者で共有

### 3 農福連携品目拡大等の取組み

- ・農作業適応・環境調査の実施  
アスパラガス収穫、ハウス管理除草等実証検討・畑わさび栽培への資材一部提供
- ・里芋収穫請負作業の拡大  
里芋部会への呼びかけ、里芋収穫作業研修会の開催  
芋割り作業を向上させる器具の実証

※ハウス管理除草については、農福連携に追加できる可能性が高まった



## 9. 地元森林材活用促進事業費 1,083千円 (R3~5年度)

東予地域は、全国屈指の製材工場が集積する一方、所有者や境界が不明な森林が多く、地元材の供給が進んでいないため、県・市・林業事業体の持つ山林データの利活用を進めるとともに、新たな精算方法を導入し、地元産の原木供給量の増大を図る。

### 1 検討会の開催

- ・概要：山林データの活用方法・個人情報取扱・モデル実証事業の結果分析等を協議。
- ・構成：県、市、森林組合、素材生産業者、流通・製材業者
- ・時期等：2回 **※8月、12月**

### 2 研修会の開催

- ・概要：森林集約化技術の向上のための研修会を開催し、関係者の技術向上を図る。
- ・構成：県、市、林業事業体、森林所有者
- ・時期等：1回 **※9月 ⇒取組みに関心を示す森林所有者の増加につながった**

### 3 モデル事業の実施

- ・概要：データを活用した山林ターゲットングにより選定された土地境界未確定地において、実際にモデル団地を設定し、地元承諾や、森林調査、測量を行い、実際に森林整備までの道筋をつける。なお、森林整備については、他の事業を活用する。
- ・内容：西条市（陰地団地） **⇒94ha実施**



## 10. ゆめしま海道3橋PR事業費 1,000千円 (R4~5年度)〔新規〕

岩城橋完成による「ゆめしま海道」の全線開通を契機とし、ゆめしま海道に架かる3橋（弓削大橋、生名橋、岩城橋）の魅力を戦略的に県内外に発信し、社会資本整備の重要性をPRするとともに、ゆめしま海道の3橋の上島町の観光資源としての地位を確立し、上島町への交流人口の増加を促進する。

### 1 「ゆめしま海道3橋PR実行委員会」の設置・開催

3橋活用のきっかけを町に提供し、施策を継続することを目的とする。

**※開催回数:3回(令和4年4月、7月、令和5年3月)**

### 2 橋梁業界紙やSNS等を活用した広報・宣伝

橋マニアに対する3橋の紹介や、イベント等に合わせて情報を発信する。

**※橋梁新聞掲載(令和4年6月)**

### 3 3橋をテーマとしたフォトコンテストの開催

応募作品の中からカレンダーや橋カードを作成し、町内での宿泊・飲食等の特典として配布する。

**※配布数 カレンダー2,000部、橋カード4,000枚**

### 4 橋梁点検体験ツアー・3橋見学会

(1) 橋梁点検体験ツアー（一般対象）

- ・モニターツアーとして実施
- ・アンケートにより顧客ニーズを把握

(2) 3橋見学会（旅行者対象）

- ・業者等を招待した見学会。
- ・上記で把握した顧客ニーズを提供し、インフラツーリズムの商品開発を依頼。

### 5 事業費合計 1,500千円 (県1,000千円、上島町500千円)



**橋カード配布!!**